

アオサギ観察会

2013年5月10日

アオサギの巣はどこに？

普通、アオサギの巣は高木のてっぺん付近にかけられます。ところが、必ずしもそうとばかりは言えないのです。たとえば、右の写真。これはかつて岩見沢市の農業用ため池のほりにあったコロニーで、地上わずか4メートルほどのところに巣があります。そしてさらに驚くべきことは、ため池に水が溜まると巣の下ぎりぎりまで水位が上昇するのです。まさに水上営巣！ おそらくこれは地上からの捕食者（アライグマやヒグマ）から巣を守るための彼らなりの工夫なのでしょう。



水上営巣と言えば、北海道では岩見沢市のブイ上での営巣が有名です。こちらのコロニーも残念ながらすでに放棄されていますが、最盛期には30数巣が確認されていました。ブイは御覧のような形状で巣をかける場所としては決して適当なものではありません。風が吹くと、卵やヒナを載せたまま、巣ごと水面にずり落ちることがよくあったそうです。

捕食者さえ来なければ、もう少し楽なところで営巣することも可能です。右の写真は富山県射水市のヨシ原に営巣するアオサギ。おそらく浮島状になったヨシ原か中洲のようなところだと思いますが、水位が上がったときにどうなるのか少々心配ではあります。もっとも、ヨシ原などはまだ環境としては良いほうで、最近では水道管や排水口など人工物上で営巣するアオサギが増えているようです。



中日新聞（2013年3月17日付）より



朝日新聞（2010年3月21日付）より

人工物といえば、鉄塔を営巣場所に選んだサギたちも

います。左の写真は名古屋市にあるコロニーで、ここではカワウとアオサギと一緒に暮らしています。ずっと前のエイプリルフールに、札幌のテレビ塔でアオサギが営巣していると嘘の記事を書いたことがありましたが、当時はまさか本当にこんなところに巣がかけられるとは思っていませんでした。日本ではアオサギ本来の営巣環境はやはり高い木の上で、樹上以外に巣がつくられるというのは異常なこと。彼らが鉄塔などの人工物に巣をかけはじめたというのは、アオサギの営巣場所がいよいよ無くなってきたことの証しなのかもしれません。

